

「読む・調べる」習慣の確立に向けた実践研究事業 (文部科学省新規委託事業)

<平成 19 年度予算額>

198,297 千円

<事業趣旨・内容>

近年、2003年のPISA調査等を受けて、児童生徒の読解力の向上の必要性が指摘されている。また、児童生徒の読書活動については小学生・中学生・高校生と学年が上がるにつれて低下する傾向にある。

このため、学校図書館を活用しつつ調べ学習などの多様な学習活動や読書活動の取組を学校で進めるとともに、学校が地域・家庭と連携して取り組むことにより「読む・調べる」習慣を確立させることが求められている。

このようなことから、

- ・ 国において、学校図書館の活用などを通じた読書活動や学習活動の促進のための会議を設置して全国に提言を行うとともに、
- ・ 国の会議と連携しつつ、子どもの「読む・調べる」習慣の確立に、学校が地域や家庭と連携して、街全体でモデル的に取り組む『子ども読書の街』を全国から指定(全国10市町村)し、その取組の成果を全国に普及する。